



### ジョン・ファンド (John Fund)

『ウォール・ストリート・ジャーナル』紙コラムニスト

1984年、*Wall Street Journal* (WSJ) 紙に論説次長として参加。政治問題のスペシャリストとして今日まで健筆をふるっている。1995年から2001年までWSJ紙編集委員を務めた。現在はWSJのコラムセクション“On the Trial”を担当し

ている。著作も多く、1992年には優秀なジャーナリストに贈られるウォーレン・ブルックス賞を受賞している。カリフォルニア州立大学でジャーナリズムと経済学を修めた。



### ラメシュ・ポヌール (Ramesh Ponnuru)

『ナショナル・レビュー』誌シニア・エディター

『タイム』誌コラムニスト

1974年カンザス州出身のインド系米国人。カトリックに改宗。所属する*National Review* (NR) 誌にとどまらず、*TIME* 誌や *Washington Post* 紙などでも活躍する若手保守系コラムニストの

代表格。2006年に出版した *The Party of Death: The Democrats, the Media, the Courts, and the Disregard for Human Life* では、中絶問題など社会政策をテーマに民主党の姿勢を厳しく批判し注目を浴びた。15歳でプリンストン大学に入学し、歴史の学位を修得した秀才としても知られる。1995年に保守系シンクタンクであるアメリカン・エンタープライズ研究所 (AEI) から *The Mystery of Japanese Growth* を出版している。



### アイク・ブラノン (Ike Brannon)

米国連邦議会下院エネルギー商業委員会共和党チーフ・エコノミスト

保守系エコノミストとして連邦政府・連邦議会の経済政策アドバイザーとして活躍する。インディアナ大学卒業後、母校およびウィスコンシン大学で経済学の准教授を務める。その後、共和党のオ

リン・ハッチ上院議員の首席経済顧問などを歴任し、財務省の税制担当上級顧問に就任。2008年の大統領選挙では共和党ジョン・マケイン候補の上級顧問を務めた。保守系言論誌 *Weekly Standard* 誌などにもたびたび寄稿している。



**ジェームズ・ピンカートン** (James Pinkerton)  
シンジケート・コラムニスト

保守派を代表するコラムニストの一人。レーガン／ブッシュ・シニアの大統領選挙および政権スタッフとして活躍。現在は、保守系ニュース専門局 FOX News や *WSJ* 紙、*NR* 誌、*The New Republic* 誌など、保守・リベラルの垣根を越えて数多くのメディアに出演・寄稿している。また、経済成長・減税・小さな政府を旗印とする Free Enterprise Fund や、シンクタンク New American Foundation の上級フェローを歴任。2008 年大統領選挙の共和党予備選では保守派が支持するマイク・ハッカービー前アーカンソー州知事の上級顧問。著書に *What Comes Next: The End of Big Government and the New Paradigm Ahead* がある。



**ジェームズ・ルシア** (James P. Lucier, Jr.)  
キャピタル・アルファ・パートナーズ LLC、マネージング・ディレクター  
シンジケート・コラムニスト

プリンストン大学で日本史を専攻した日本通。レーガン時代も含めて 20 年以上にわたりワシントンで政治とビジネスに関わってきた。保守派グラスルーツ団体の要といわれる Americans for Tax Reform (ATR) でグローバー・ノークスト会長に側近として仕え、1994 年のアメリカ保守革命を草の根から支えた 1 人であり、ワシントンに極めて幅広い人脈を持つ。プルデンシャル保険グローバル・エクイティ・リサーチ社の副社長などを経て現職。*WSJ* 紙など大手メディアへの寄稿も多く、過去に小泉政権に関する論考などを執筆している。